

# **5. 電圧変動率と変圧器の損失と効率**

## **5. Voltage Regulation , Loss and Efficiency of the Transformer**

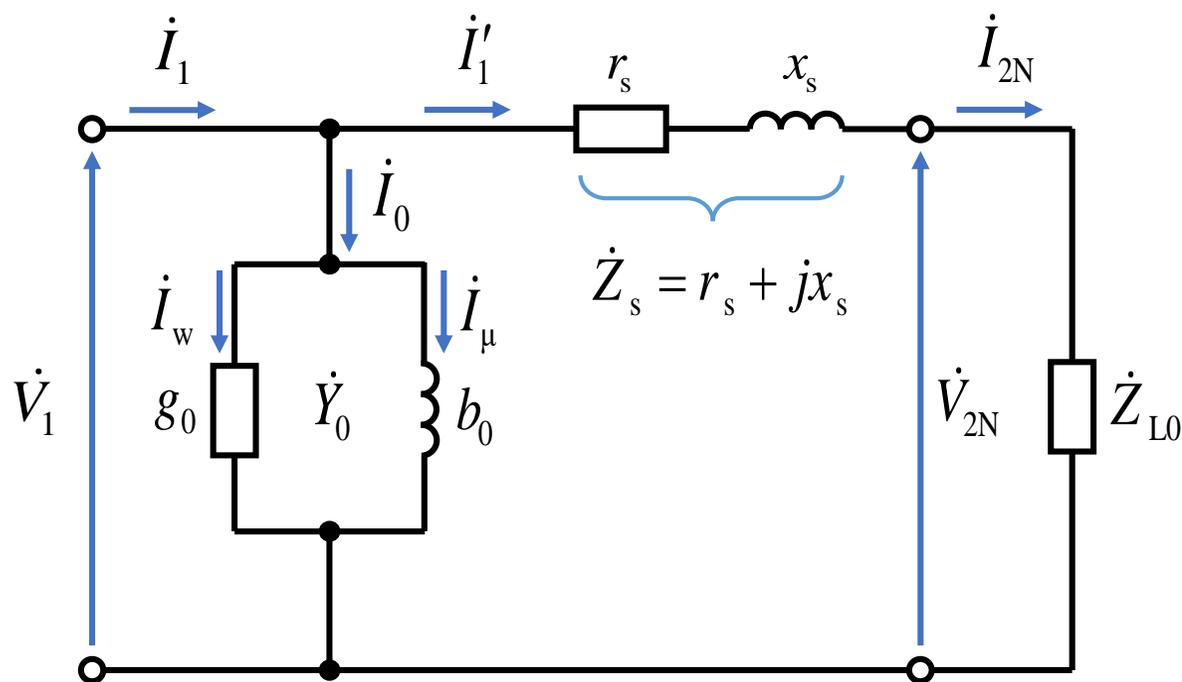
### **講義内容**

- 1. 電圧変動率**
- 2. 各種損失**
- 3. 各種効率**

# 電圧変動率

変圧器は、**1次** 電圧が一定でも **負荷** 電流の大きさにより **2次** 電圧が変化する

➡ **短絡** インピーダンスによる電圧 **降下** が **負荷** 電流により **変化** する



## 電圧変動率

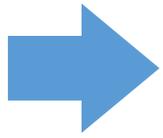
無負荷 電圧  
定格負荷 時の  
2次電圧

$$\varepsilon = \frac{V_{20} - V_{2N}}{V_{2N}} \times 100[\%]$$

$$\approx q_r \cos \theta + q_x \sin \theta$$

# 変圧器の損失

変圧器の  
損失  $P_{loss}$



負荷を繋いでいない時にも発生している : **無負荷** 損  
負荷を繋いだ時に新たに発生する : **負荷** 損

変圧器の  
損失  $P_{loss}$

**無負荷** 損  
 $P_{NL}$

**鉄** 損  $P_i$

**ヒステリシス** 損  $P_h = K_h f B_m^{1.6}$

**渦電流** 損  $P_e = K_e f^2 B_m^2$

漂遊無負荷損 (誘電体損を含む)

**負荷** 損  
 $P_L$

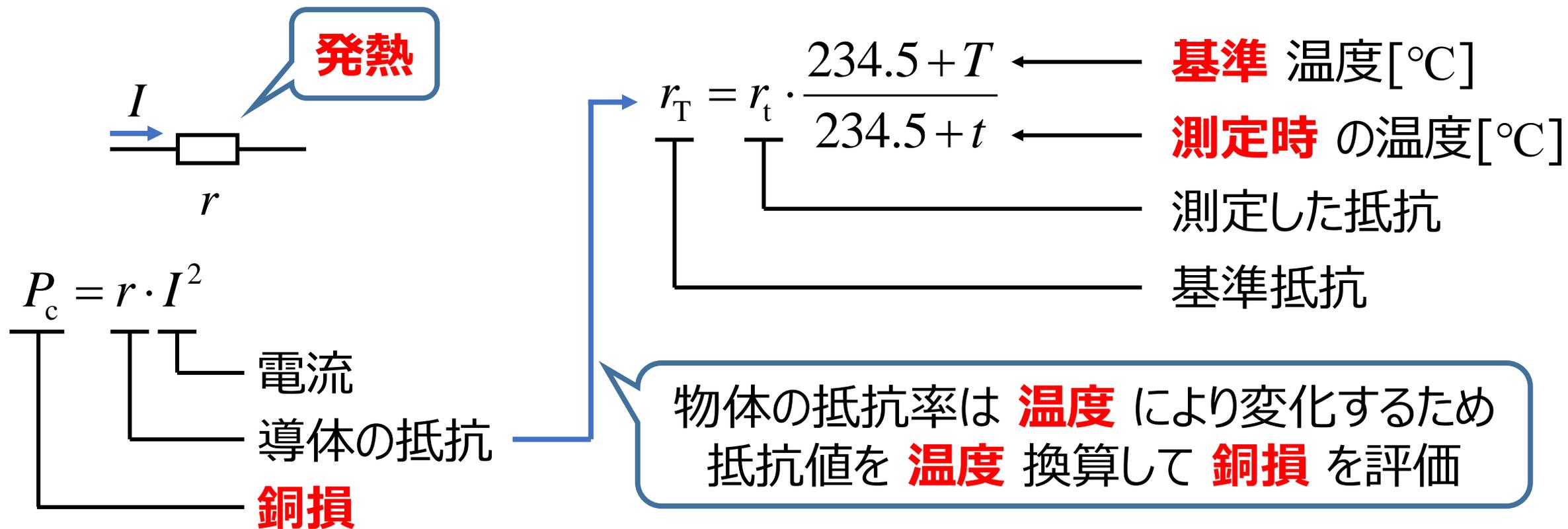
**銅** 損  $P_c = r_1 I_1^2 + r_2 I_2^2$

漂遊負荷損 → **漂遊** 損  $P_{st}$

$K_h, K_e$  : 損失係数  
 $B_m$  : 最大磁束密度

# 銅損(Copper Loss)

電気機器用の巻線には **抵抗** の小さい **銅** 線やアルミ線を用いる



※234.5は銅における温度係数なので，材料に応じて変化する必要あり

# 鉄損 (Iron Loss)

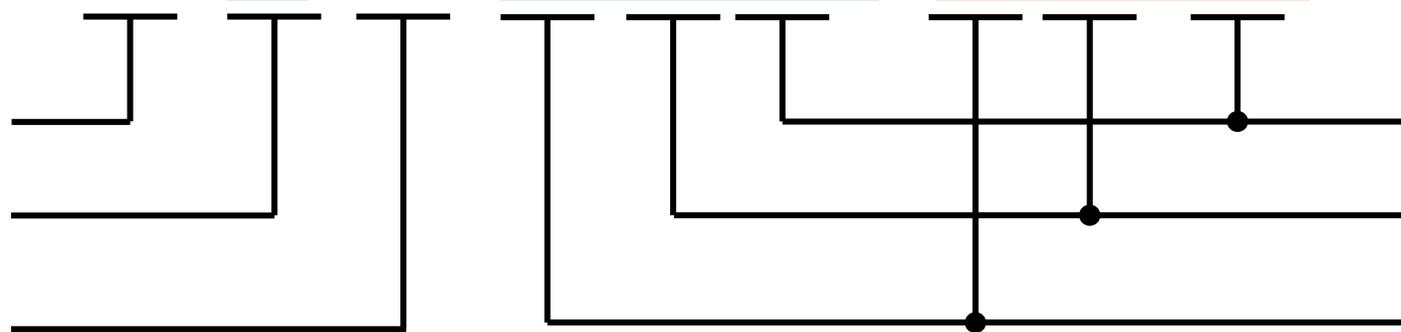
磁性体には **磁束** により生じる損失があり、これを **鉄損** と呼ぶ (下式は実験式)

Charles  
Proteus  
Steinmetz



$$P_i = P_h + P_e = K_h \cdot f \cdot B_m^{1.6} + K_e \cdot f^2 \cdot B_m^2$$

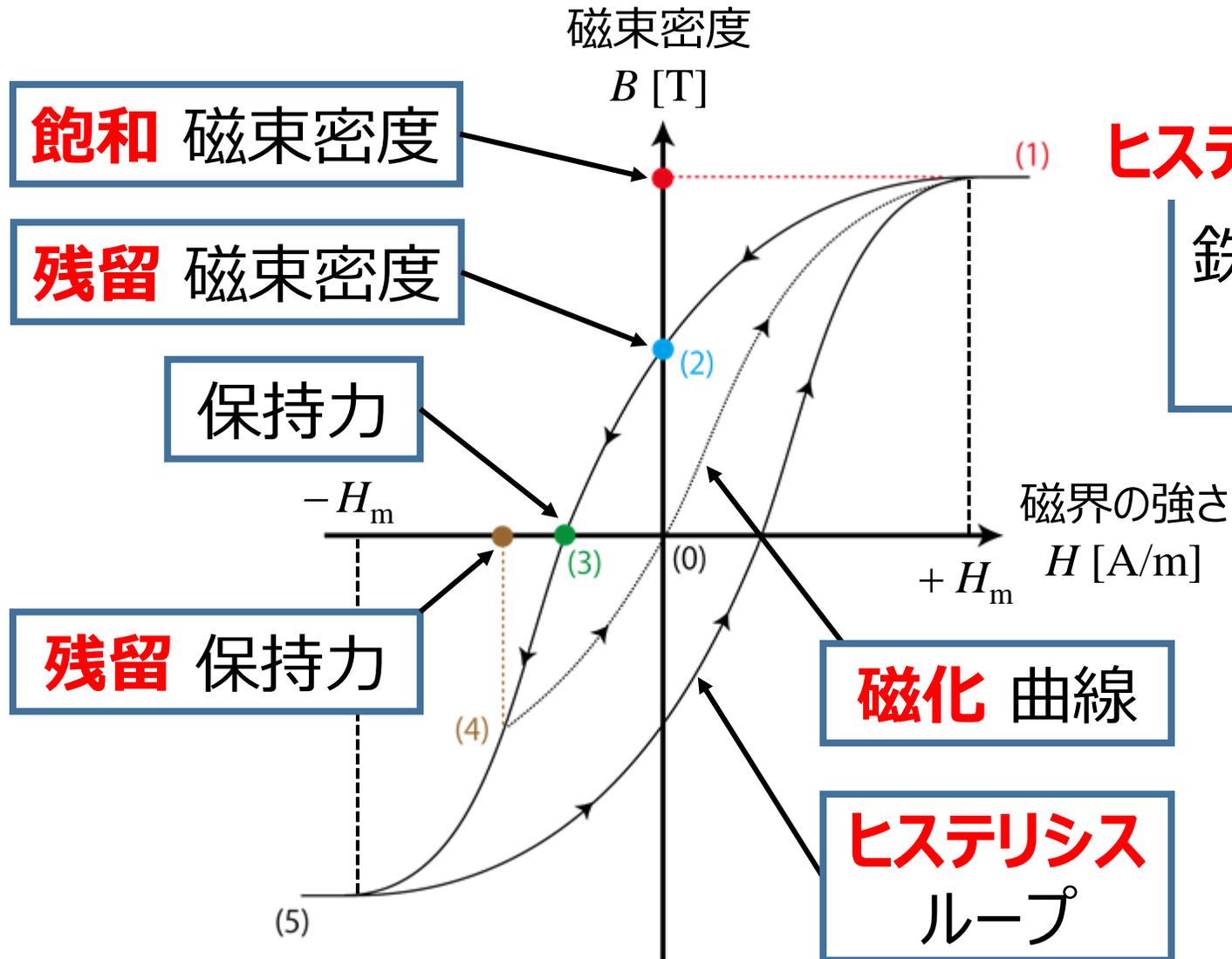
**鉄損**  
**ヒステリシス損**  
**渦電流損**



最大磁束密度  
周波数  
損失係数

**鉄損**は **無負荷** 損に相当し、磁性体の **材料** や鉄心の **構造** によって各種損失を低減することが可能となる

# ヒステリシスループとヒステリシス損



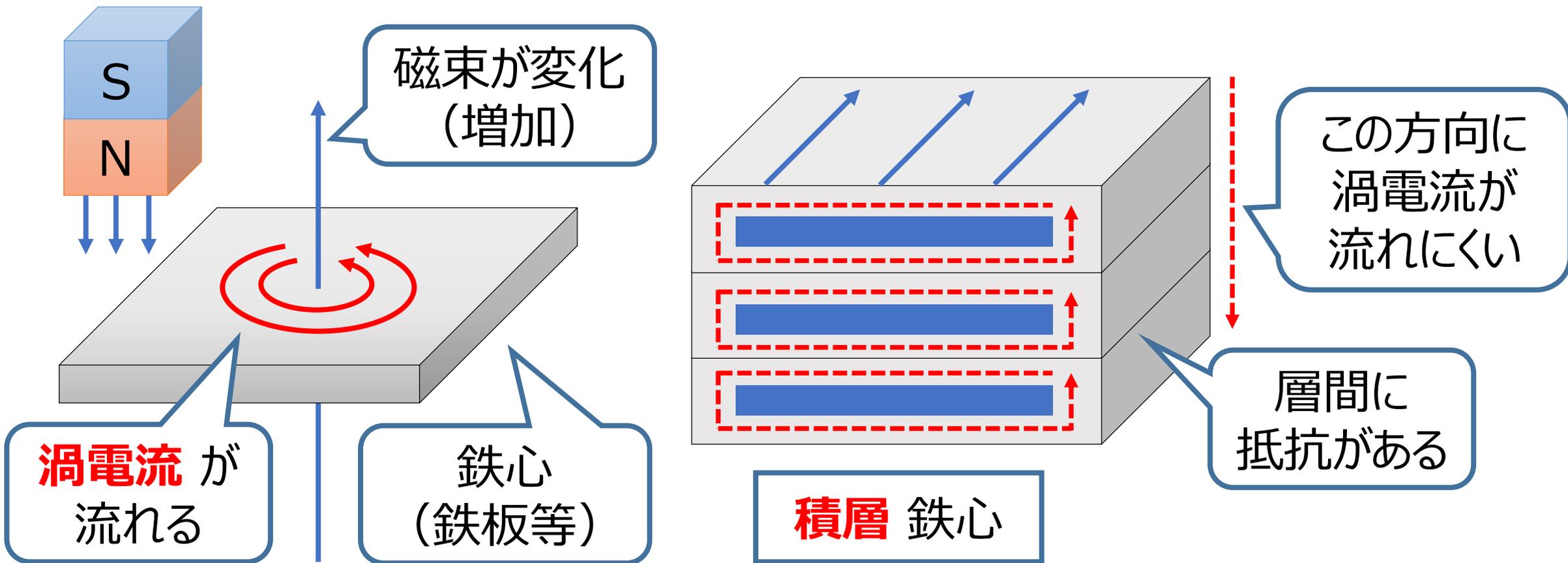
## ヒステリシス 損

鉄心の **磁区** が **交番** 磁界によって磁界の向きを変えるとききの損失



ヒステリシス ループの **面積** が損失に相当する

# 渦電流(Eddy Current)と積層鉄心



磁石を近づけると、それに反発するように **渦電流** が流れ反作用磁束が生じる

# 例題：変圧器の損失

定格容量10[kVA]，一次定格電圧6.6[kV]，二次定格電圧200[V]の変圧器に60[Hz]の定格電圧を印加する。最大磁束密度が1.5[T]となって，無負荷損が50[W]の時，ヒステリシス損と渦電流損が同じだと仮定する。このときの損失係数  $K_h$ ， $K_e$  を求めよ。ここで，漂遊損は非常に小さく，無視できるものとする。

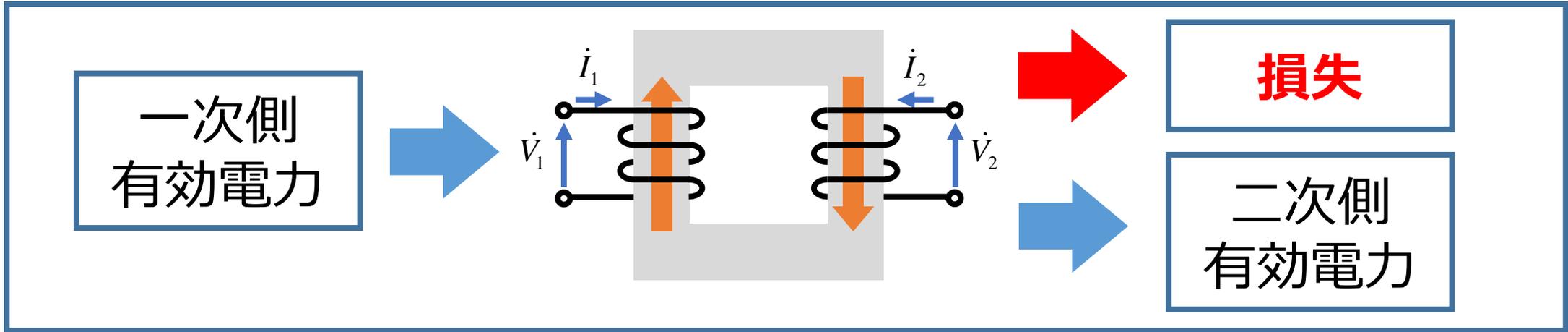
題意より，ヒステリシス損  $P_h$  と渦電流損  $P_e$  が等しいとし，更に漂遊損も無視できるので，無負荷損  $P_{NL} = P_h + P_e = 50[\text{W}]$ ， $P_h = P_e = 25[\text{W}]$  となる。

$$K_h = \frac{P_h}{f \cdot B_m^{1.6}} = \frac{25}{60 \times 1.5^{1.6}} = 0.217[\text{J} / \text{T}^2] \approx 0.22[\text{m}^4 / (\Omega \cdot \text{s})]$$

$$K_e = \frac{P_e}{f^2 \cdot B_m^2} = \frac{25}{60^2 \times 1.5^2} = \frac{1}{324}[\text{J} \cdot \text{s} / \text{T}^2] \approx 3.09 \times 10^{-3}[\text{m}^4 / \Omega]$$

# 変圧器の効率

変圧器の **効率** : 一次側の有効電力 $P_1$ と二次側の有効電力 $P_2$ の比



$$\eta = \frac{P_2}{P_1} = \frac{P_2}{P_2 + P_{\text{loss}}} = \frac{P_2}{P_2 + (P_L + P_{\text{NL}})} = \frac{V_2 I_2 \cos \theta}{V_2 I_2 \cos \theta + (P_i + P_c + P_{\text{st}})}$$

定格負荷( $V_2=V_{2N}$ ,  $I_2=I_{2N}$ )  
の効率 : **規約効率**

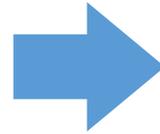
**鉄損**

**銅損**

**漂遊損**

※漂遊損は計算上合わない損失の辻褃合わせ

変圧器を定格容量で使用は稀



変圧器の負荷：全負荷の **1/n**

$$\text{負荷電流： } I_{2N} \Rightarrow \frac{I_{2N}}{n}$$

$$\text{銅損： } r \cdot I_{2N}^2 \Rightarrow r \left( \frac{I_{2N}}{n} \right)^2 = \frac{P_{cN}}{n^2}$$

鉄損：負荷電流に関係なく **一定**

漂遊損：負荷電流に関係なく  
一定であると仮定

$$\eta_{\frac{1}{n}} = \frac{\frac{1}{n} V_{2N} I_{2N} \cos \theta}{\frac{1}{n} V_{2N} I_{2N} \cos \theta + \left( P_i + \frac{1}{n^2} P_{cN} + P_{stN} \right)}$$

**部分負荷 効率**

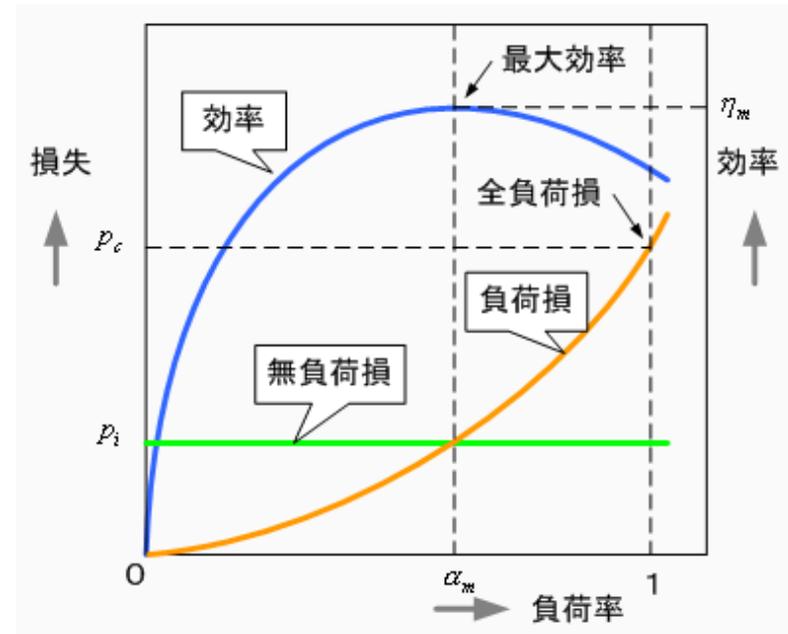
※定格負荷でなくとも同じ式

# 変圧器の最大効率（定格）

変圧器の二次側の定格電圧を $V_{2N}$ 、定格電流を $I_{2N}$ 、二次側に換算した全抵抗を $r_{12}$ とし、漂遊損を無視すると負荷損は銅損のみとなるので、

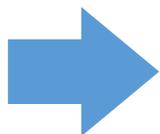
$$\eta = \frac{V_{2N} I_{2N} \cos \theta}{V_{2N} I_{2N} \cos \theta + (P_i + r_{12} I_{2N}^2)} = \frac{V_{2N} \cos \theta}{V_{2N} \cos \theta + \left( \frac{P_i}{I_{2N}} + r_{12} I_{2N} \right)}$$

この時、負荷の大きさによって変化するのは分母の括弧内の式であり、これらが **最小** になればよい



$$\therefore \frac{P_i}{I_{2N}} \times r_{12} I_{2N} = P_i \cdot r_{12} (\text{一定}) \text{ と考えると,}$$

$$\frac{P_i}{I_{2N}} = r_{12} I_{2N}$$



$P_i = r_{12} I_{2N}^2$  (鉄損 = 銅損) が **最大効率** 条件となる  
 ※  $A \times B = \text{一定}$  ならば、 $A = B$  の時に  $A + B$  は最小となる

# 変圧器の最大効率

変圧器に流れる二次電流は負荷の大きさによって異なり、  
 定格時に銅損と鉄損が等しくなるとは限らない

$$\eta = \frac{V_{2N} I_{2N} \cos \theta}{V_{2N} I_{2N} \cos \theta + (P_i + r_{12} I_{2N}^2)} = \frac{V_{2N} \cos \theta}{V_{2N} \cos \theta + \left( \frac{P_i}{I_{2N}} + r_{12} I_{2N} \right)} \Rightarrow \eta = \frac{V_2 \cos \theta}{V_2 \cos \theta + \left( \frac{P_i}{I_2} + r_{12} I_2 \right)}$$

$\therefore \frac{P_i}{I_2} = r_{12} I_2$  より、

$$I_2 = \sqrt{\frac{P_i}{r_{12}}} = \sqrt{\frac{P_i}{\left( \frac{P_c}{I_{2N}^2} \right)}} = \sqrt{\frac{P_i}{P_c}} I_{2N} \quad \rightarrow \quad I_2 = \sqrt{\frac{P_i + P_{stN}}{P_c}} I_{2N}$$

最大効率時の2次電流は

二次側換算した全抵抗は負荷損（銅損）を  
**定格** 二次電流で割った値であることに注意！

**漂遊** 損も考慮した  
 最大効率時の $I_2$